

災害に備え協力体制を整備

中田で災害ボランティアセンター設置訓練

将来、高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震などの災害に対する心構えと、復興支援への迅速な対応を目的として、市災害ボランティアセンター設置訓練（市社会福祉協議会主催）が3月16日、市内2会場で開催され、市内から約100人が参加しました。中田会場の中田農村環境改善センターでは、ボランティアセンターの運営側とボランティア側に分かれ、それぞれ連携を取りながら、災害時のボランティア活動について訓練が実施され、参加者は真剣な表情で取り組んでいました。



▲各班に分かれてセンターの運営側とボランティアの動きを体験

日ごろの活動環境をきれいに

迫でスポーツ少年団クリーンキャンペーン

市スポーツ少年団迫支部クリーンキャンペーンが3月20～23日開催され、迫地区内18カ所の清掃活動にスポーツ少年団迫支部24団体の団員と保護者、指導者などが参加しました。この事業は、日ごろの活動場所とその周辺環境に対する親しみや、自然環境に対する意識の向上を図ることを目指した取り組みで、当日は小雨や強風が吹くあいにくの天候でしたが、参加した団員からは「思ったよりごみがたくさんあってびっくりした。みんなで気を付けて、ごみを減らしていきたい」といった感想が聞かれました。



▲ごみ収集用に用意した袋は、あっという間にゴミでいっぱい

おそろいの制服で共に学ぶ

東和中にカナダからの留学生

姉妹都市であるカナダのバーノン市から短期留学生としてミッシェル・エップさんが来日し、東和中の生徒としておそろいの制服に身を包み、クラスメートと机を並べて学校生活を送りました。今回の留学はミッシェルさんの希望によるもので、「日本語だけでなく、日本の生活習慣や文化について深く学びたい」と話し、初めて着る制服も「とってもかわいい」と喜んでいました。ミッシェルさんは3学期まで東和中で学び、4月から佐沼中で学んだ後、5月初旬に帰国する予定です。



▲クラスメートとともに授業を受けるミッシェルさん



▲ローラーやはけを使い、思いを込めてくりでんを塗り直しました

くりでんの雄姿がよみがえる

石越でくりでん展示車両塗装事業

くりはら田園鉄道の貴重な車両に長く親んでもらおうと2月28日、野外展示されているチャチャワールドいしこしで車両の塗装事業が行われました。車両は40年間旧くりはら田園鉄道で使用された後、同園に保存展示されている車両で、年数の経過により塗装の劣化が進んできたため今回再塗装されました。事業には、市民との協働事業として参加者を募集したところ、市内や栗原市などから25人が申し込み、参加者は車体に丁寧にローラーで赤色のペンキを塗ったり、車体番号を書き直したりしていました。

親子でふれあいのひととき

豊里で子育てサロンお楽しみ会

豊里子育て支援センターで3月12日、平成20年度の締めくくりの事業として、お楽しみ会が行われました。お楽しみ会には、子育てサロンを利用している親子33人が参加し、パネルシアターや絵合わせゲームなどをみんなで楽しみました。風船を使ったゲームでは、大好きなお母さんに膨らませてもらった風船を、親子で向かい合って「ぼ～んぼん」と互いに弾ませ、和やかなひとときを過ごしていました。参加者は「1年間親子で楽しい時間を過ごせました。来年も参加したいと思います」と、話していました。



▲会場はたくさんの親子の楽しそうな声と笑顔であふれていました

いつでも青空いっぱい!

新登米児童館で開所式

県道築館登米線改良工事に伴い、昨年8月から建設が進められてきた登米児童館が完成し、3月9日に開所式が行われました。新児童館は、遊戯室壁面に描かれた青空の模様が特徴的で、児童たちがいつでも青空の下で、元気いっぱい活動できるようなデザインとなっています。式では登米学童クラブを代表して菅野翔太君と及川夏奈さんが旧児童館での思い出やこれからの抱負を発表しました。その後、学童クラブ全員で「小さなハンス」を歌い、児童館の開所を祝いました。



▲壁に描かれた一面の青空の下、元気な歌声がホールに響きました